

令和元年度 第2回 社会教育委員の会議 摘録

- 【日 時】 令和元年10月29日（火）午後2時00分～
- 【場 所】 生涯学習支援センター 1階 多目的室
- 【出席委員】 上田委員、西田委員、柿原委員、堺(婦)委員、野田委員、松尾委員、江崎(君)委員、江崎(美)委員、後藤委員、藤本委員、岡本委員、柿川委員、堺(裕)委員
- 【行政関係者】 中島市民協働部長、富安市民協働部調整監、徳川地域コミュニティ推進課長、大倉野生涯学習課長、楠生涯学習課青少年担当課長、徳永スポーツ推進室長、平田人権・同和・男女共同参画課長、西田地域コミュニティ推進課社会教育主事、岡同課社会教育担当職員、西山同課社会教育担当職員

◆あいさつ

中島市民協働部長

◆議 題

1 令和元年度南筑後地区社会教育委員交流会について（報告）

江崎（君）委員、野田委員、堺（婦）委員より、配布資料『研修参加報告書』に基づき報告。

2 大牟田市文化芸術振興プランの改定について（協議）

配布資料『大牟田市文化芸術振興プランの改定について』、『大牟田市文化芸術振興プラン（素案）』に基づき、大倉野課長より説明。以下の意見・質問が出た。

委員	高校生のクラブ活動を地区公民館の文化祭や小学校へのゲストティーチャーとして活躍してもらうのはどうか。
委員	学生茶会のような中学生、高校生が取り組んでいる伝統文化をもっと広げていくべきだと思う。日本の伝統文化に取り組んでいる学生の活動を集めて、披露する機会が必要である。
行政関係者	再来年度を目標に高校生総合文化祭のようなものがないかと考えている。高校生が企画、運営を行い、発表等を行うものを企画している。
議長	それぞれの年齢層に得意な文化芸術の活動があり、発表の場を作っていく必要がある。
委員	地域の伝統芸能を地域の人が引き継いできたが、高齢化が進んでいる。そこで玉川校区では、伝統芸能「米はかり踊り」を玉川小学校5年生が引き継いでいる。学校の行事、玉川どんと祭にも参加している。地域住民による「米はかり踊り」の保

	存会が子ども達に正確な踊りを教えている。実際に、文化会館で伝統芸能の発表会した際に、「このような踊りがあることを知らなかった」という声があがった。
議長	『大牟田市文化芸術振興プラン(素案)』の21ページ「どのような文化芸術に興味があるか」という質問に対して、伝統芸能(能楽、歌舞伎など)に興味があると答えた若者が2.2%と、興味関心が低いことがわかる。伝統芸能に興味がないのではなく、知らない若者が多いということであれば、伝統芸能を周知していく必要がある。
委員	玉川小学校にはフィールドワーククラブがあり、子ども達が神社や川などをまわっている。子どもたちが自分の地域を知ろうと熱心に活動しており、地域の人々も協力している。活動を通じて玉川の伝統を広げていってほしい。
議長	学校では伝統などの掘り起こしを行っていく上で、校区にある文化・芸術に対する情報はどうしているのか。
委員	ESD推進によって校区の特色を生かし、校区を知るための取組みを各学校でおこなっている。上内小学校では、地域の自然とふれあい、伝統芸能であれば「ぜんでこ踊りとひゅうたん廻し」を行っている。地域では担い手が不足しており、上内小学校ならではの特色化を図りたいと考えていたため、お互いのニーズが合致した。そのため、今年から運動会の全校踊りで「ぜんでこ踊りとひゅうたん廻し」を復活させた。地域の方に来てもらい、教えてもらうことで地域の方々との触れ合うことができ、上内小学校に入学すれば「ぜんでこ踊りとひゅうたん廻し」が踊れるようになる地域外でも伝統芸能が広まっていくのではないかと考えている。また職員も異動があると、遺跡など校区のお宝を詳しく知ることがなかなかできないため今年の夏、市の世界遺産・文化財室から講師を招き、研修・フィールドワークを行った。子ども達の意識を高めるためにも取組みを行っていききたい。
議長	SDGsのゴールでは、どれにあたるのか。
委員	「11 住み続けられるまちづくりを」にあたるが、1年生の生活の授業から6年生の総合の授業で「地域の人と触れ合う、地域を知る、地域のことと触れる」ということを考えながら行っているため、17の目標の中でも重なり合っている。
委員	地域貢献という形で、中学校では依頼があれば吹奏楽の演奏をしに出向くなどしている。地域の方と一緒に盛り上げている。
議長	地域を盛り上げるという点でお祭りはどうか。
委員	自身の経験も含め、大蛇山に参加していく中で地域の方が見守ってくれる環境、先輩達のかっこいい姿を見て育つと、大牟田のために何かできないかという気持ちになった。子ども達が地域のために何かしたいと思えるような動機づけを行う必要

	がある。
議長	子ども達の動機付けに繋がるような多世代間の交流が必要である。
委員	大牟田市では子ども達を文化芸術に触れさせる機会が少ない。学校で触れさせる機会を増やす、料金を下げるなどの工夫が必要である。

3 令和元年度大牟田市社会教育・生涯学習基礎調査研究（報告）

配布資料「令和元年度 大牟田市社会教育・生涯学習基礎調査研究（調査研究報告書）」に基づき、大倉野課長より説明。

◆社会教育委員協議

協議テーマ「次世代を担う子どもをはぐくむための学校、家庭、地域の役割」

委員	次世代を担う子どもをはぐくむためには、成功体験が必要ではないか。子どもが少ない中で地域に子ども達が参加することは大切である。しかし、安心・安全に参加してもらうためには親の参加も必要であるが、共働きの親が多いため難しい。
議長	どういったことが成功体験に繋がるか。
委員	自ら企画して、少しでも達成感を味わうことが出来ることが成功体験ではないか。そのためには地域の人たちのサポートも必要である。
議長	地域で子ども達が企画して行うことがあるのか。
委員	中学校では自分達で企画し体育祭を行っている。成功体験は、地域だけでなく学校の中でも経験することが出来る。大正小学校でアンビシャス広場を行った際には、子ども達が自ら「やりたい」と申し出たバザーをさせた。このような子どもが「やりたい」と言った事を親や大人がサポートできるかがポイントだと思う。
議長	サポートする上での大人の役割はどうすればよいか。
委員	学校においては、親が学校に子どもがやりたいと考えていることを伝え、了解を得てから、子ども達からも先生に提案させていくと子ども達は自信がついていく。子ども達が地域に入り込めるように仲介役をしていく。
委員	学校に提案するにあたって、地域にしながら学校とも連携をとっているPTAに仲介役をお願いするのが良いと思う。学校側もPTAが絡んでいると安心できるため、地域、学校、PTA（家庭）で連携していくことができる。
議長	『令和元年度大牟田市社会教育・生涯学習基礎調査研究（調査研究報告書）』の136ページには「企画から実践まで若者自らが行き、まちづくりに参画する取組みを行うこと」とあるが、行政ではどういった取組みを考えているのか。
行政関係者	高校生の方では総合文化祭を考えている。
委員	みなと祭りでは、PTAも一緒に活動している。また、みなと校区では体育祭を

	行っている。学校と地域で行っており、子ども達や親、地域の人も参加しており、連携している。
委員	その企画に、高校生が参加しているのか。
委員	ボランティアとしては参加しているが、企画からは参加していない。
委員	企画から参加することで、見方が変わってくると思う。資金集めの大変さや地域の人々がどのように活動されているかを理解することが出来、自分が大人になったときに学んだことを活かすことができるのではないか。
委員	勝立校区では、勝立大蛇山を行っており、玉川小学校、天の原小学校、地域、市、PTAで連携して行っている。更に有明高専の学生も協力している。以前は有明高専の学生はボランティアとして参加していたが、今では企画の一部を担当してもらっている。
委員	地域の大学との連携は大切だと思う。他市では学生を企画から参加させ、授業のない時はインターシップとして行政の中に参加させているところもある。
議長	「きれめなく」というのは各世代が参画できるということだが、大牟田市では中高生の参画が少ないといことがわかった。どうすればよいか。
委員	学生を企画から参加させている市では、県立高校に県から要請があっている。中高の連携をしていくべき。高校単体でボランティアを行っているところはあるが、連携してはやっていない。ユネスコスクールに高校が入るならば、同じ理念を持って活動することができるため、連携することができるのではないか。
委員	高等学校の校長先生から要望があり、高校の書道部が中学校と連携して、中学校の体育館に飾る目標を書いたり、ありあけ新世高等学校ダンス部の学生が子ども達にダンスを教えたいと吉野地区公民館でダンスの講座を企画・運営している。学校の垣根を越えたコーディネートを行っている。

◆その他

⇒ 第3回会議 12月4日 予定